

# 13 短歌について書こう

組	
番号	
氏名	

## 解答例

(選択番号 ①) この歌の作者は自分の夢に向かってはばたこうとしながらも、悩みをかかえて迷っているのではないか。特に「青春と夢と疑問が詰まってる」という表現からそう感じた。

青春時代には未来に対する夢がある。だが、同時に多くの疑問もかかえているものだと思う。私もときどき、「なぜ勉強するのだろう」とか、「なぜ生きているのだろう」とも考えてしまうことがある。

また、「四角い小部屋」という表現から、作者の心は教室から飛び出し、もっと広い世界へ向かおうとしているとも感じた。そんな作者に私は共感した。

(選択番号 ②) この歌の作者は、バスの中でお年寄りに席を譲りたいと思ったが、それを言葉に出す勇気がなかなか持てなかったのかもしれない。だから、「座りますか」という一言が言えたとき、きつと大きな満足感を持ったのだろう。「自分に拍手を送る」が、それをよく表していると思う。

席を譲るといふのは、簡単なことのように思えるが、その場になると勇気がいる。私も「どうぞ」の一言がどうしても言えず、後悔したことがある。この歌からは、そんなもやもやを吹っ切った、作者のさわやかな気持ち伝わってくる。

(選択番号 ③) この歌の作者はなぜ「久しぶり」にこの道を下校するのだろう。病気が何かで長いこと欠席でもしていたのだろうか。その「久しぶり」の間に、道ばたに秋桜の花が咲いた。そこから、季節の移り変わりを感じたのだと思う。

見慣れた道が、ちょっとしたことと違う顔を見せたり季節の変化を感じさせたりする。そういうことは、私たちの毎日の生活の中にいくらかもあるような気がするが、ふだんはそれに気がつかないだけなのだろう。この歌からは、作者の優しいまなざしと、感動とが伝わってくる。

## 解説

次のような点に気をつけてよく読み取ったうえで書く。

1 どんな情景が描かれているのか。(時・場所・季節・状況など)

2 どんな心情が描かれているのか。(喜怒哀楽のどの感情が描かれているのか、なぜその感情がわき起こっているのか、など)

3 歌に使われている言葉のイメージや、言葉と言葉のつながりをもとに、自分のイメージを広げて想像してみる。ただし、自分勝手な空想にならないように注意する。